



Vol 3

横浜市戸塚区民文化センター
さくらプラザ 情報誌



©篠山紀信

SAKURA PLAZA



Pick Up Artist

インタビュー

前橋 汀子 / 石川 滋

SAKURA ONLY KNOWS ブランチコンサート Vol.5 佐藤 俊介

RECOMMENDED ARTIST

エッセイ 柳家小せん

筆の向くまま

戸塚出身の小せん師匠が、扇子をペンに持ち替えて

レポート 駆が駆ける

戸塚の名所に行って来ました!編



Pick Up Artist



まえはし
前橋

ていこ
汀子

前橋汀子プロデューサー 2014〜2018
そして、伝説の横浜から
第2章へ

日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味あふれる演奏で、多くの聴衆を魅了し続けている前橋汀子さん。その功績が認められ2011年春の紫綬褒章受章。日本人として初めて旧ソ連の国立レニングラード音楽院(現サンクトペテルブルク音楽院)に留学し、2012年には演奏活動50周年を迎えた。さくらプラザで、2014年から2018年の5年間の中期プロジェクトとして「前橋汀子プロデューサーシリーズ」を開催する。

一演奏活動50周年おめでとうございます。これまでの活動を振り返ってみて特別な思い等ございますか？

あらためて思い返してみますと、一番はやはり健康に恵まれたというのが続けてこられた大きな要素かなと思います。そしてその時の時の人との出会いや素晴らしい先生達との巡り合いというのが、どれもが本当に得がたくありがたいことだったなと思います。こんなに長く弾き続けるとは想像も出来なかったことなんです。あつという間の50年でした。5歳でヴァイオリンに出会い、小学生の時に聴いたダヴィット・オイストラフの演奏に感動して、どうしてもロシアに勉強に行きたいという子供の時の夢が叶って、桐朋学園の高校を2年で中退して、旧ソ連のレニングラード(現サンクトペテルブルク)の音楽院に留学し、それから本当にいろいろな先生に出会い、またいろいろな場所に住んで勉強して今に至ったということです。

一オイストラフ以外の出会いというのは？

皆さん亡くなってしまいましたけれども、コーガン、メニューイン、ハイフェッツ、ミッシャ・エルマン、それからフランチェスカッティ、グリュミオー、ミルシュタインなどの演奏を実際に聴いているんですよ。シゲティ先生は師事した時にはもう演奏をされてなかったのですが、私が小学生の時に日比谷公会堂で聴きました。また、私がソ連に留学していたときに、作曲家のストラヴィンスキーがヨーロッパに亡命したあと50年ぶりに故郷サンクトペテルブルクに帰ってきて自作の作品をレニングラード・フィルで振った1962年のコンサートに私は立ち会ってるんですね。

そういう思い出のコンサートというのは、その時の観客の熱狂ぶりや、自分が着ていた洋服まではっきり覚えてるくらい脳裏に焼き付いてますね。

それとハイフェッツの晩年になるのですが、私がイスラエルに演奏旅行に行っていたときにテリアピブで聴いた彼の演奏会は、本当にもう私がヴァイオリンをやってる意味がないわかって思うくらい素晴らしい演奏で、ヴァイオリンの演奏でこんなに人を感動させられるのかと思うような本当に素晴らしいコンサートでした。ロンドンで聴いたメニューインのエルガーのコンチェルトとか、晩年ミルシュタインが70歳を過ぎてから弾かれたブラームスのヴァイオリンコンチェルトからメンデルスゾーンのコンチェルト、あとグリュミオーとか、フランチェスカッティらの最盛期の演奏を実際に聴いてますのでね、そのどれもが印象的でした。一つ私が今になって思いますのが、彼らの演奏のスタイルという



か個性というか、演奏家の人格、品格、教養、素養というものが全てその人の音やたたずまいに集約されて現れてくる気がします。

一前橋さんもそのような演奏家のお一人だと思えますが…

いやあ、私が今並べたような演奏家達には足元にも及びませんが、長いこと弾き続けてきて、最終的には全てが集約されて反映されてる音が出せればと思うんですよ、自分で。だから小さい毎日の日々の生活を大切にしながら、その積み重ねかなと思って生きてます。

一ご自身の演奏会の中でなにが印象に残る演奏はございますか？

私のデビューになったストコフスキーのニューヨーク カーネギー・ホールでの演奏会とか、ズービン・メータと最初に共演したコンチェルトとか、ロンドンでのルドルフ・ケンペとかね。それからエッシェンバッハのピアノで弾いて一緒にツアーをやったベートーヴェンのソナタは本当に貴重な楽しいデュオでしたね。弾きながら胸にぐっとくるような旋律というか、そういうモメントというのがベートーヴェンにはあるんですよ。一緒にその感覚を得られるということは、そうあることではないので、素晴らしい共演者に恵まれたひとときの演奏会が、それぞれ大変印象に残ってます。

一前橋さんにとって音楽の持つ力というのはどのように感じにいられますか？

私もヴァイオリンを50年も弾き続けてきて、いろいろと打ちのめされたり、挫折したり、もうヴァイオリンを弾き続けられない、弾き続けるのがもう嫌だと思ったことはありましたが、さっき言ったような本当に素晴らしい人たちのコンサートに行くと、その時に感動し感激して、その音楽によって私なりにもうちょっと頑張ってみようかという力を与えてもらい、そういうことが前に進めてくれたかなってね。音楽で救われたというか背中を押されたというか、そういうものを思います。

一その一番がヴァイオリンを始めてオイストラフの演奏を聴いたことですか？



サンクトペテルブルク音楽院の創立100周年記念に日本から初めての留学生として奥野の横浜港からモジャスキー号で出発する高校2年の前橋汀子さん

それは子どもですからね、その時はまさか自分がヴァイオリン弾きでこんなに長くやるなんて夢にも思ってなかったです(笑)。私が特別に好きで始めたというわけでもないんですよ。始めた本当のきっかけはね、幼稚園の情操教育で、ピアノかヴァイオリンかどっちかに丸をつけるようになっていたんですって。家にピアノもなかったんで、ピアノをやるならピアノを買わなきゃいけないけど、小さいヴァイオリンなら安いじゃないですか。もう単純にそれぐらいの発想で母はヴァイオリンに丸をつけたんですって。それが出会いですよ。それから、母も毎日しっかり生活のリズムを作り、朝起きて歯を磨いて、その中にヴァイオリンの練習というものを組み込んでいたから、私、みんなヴァイオリンが日常生活の中にあるのかと思っていました(笑)。子どもってというのはそのぐらいの発想で、なんか全然苦になるとかじゃなくて、そういうものだと思えば長いこと思っていたんですよ。それぐらいで始めましたから、まさか私がこんなに長いことヴァイオリンをソロで弾きながら活動するなんていうのは、イメージとしてはなかったですし、どういふものかも分かりませんでした。ただせっかく始めたからには辞めてしまうのも残念だからということで、小学校に入るときに小野アンナ先生について、そこから専門的というかしっかりお稽古が始まりました。そのオイストラフというのは1953年に日ソ国交回復して第一号の文化使節だったのですが、当時は情報が少なく、すごいヴァイオリニストで世界がビックリしたという情報ぐらいしかなかった時代だったんですよ。そのオイストラフの演奏会が日比谷公会堂であって、チケットを入手するのも困難だったのでしようけど、出来るだけそういう素晴らしい演奏を子供に聴かせようと思えば母が連れて行ったコンサート、それがきっかけになっているんですよ。そのコンサートを聴けなかったら私がソ連に行くなんて

Pick Up Artist



前橋 汀子



発想もなかったですよ。だから面白いものです。一つの音楽会が与える、その思いという出会いとかきかけとかいうか、今思うとみんなそんなようなものが繋がっているような気がします。

—ソビエトに行く為いろいろな出会いが用意されてたという感じがします。

そういうふうに見えるかもしれませんが。小野アンナ先生は初めて接した外国人でもあるのですが、非常に日本語が堪能であったし、彼女自身ももう本当にすごい素敵な女性だったんですよ、容姿も含めてね。日本の子どもたちにヴァイオリンを教えるということに命をかけてました。そういうような思いは子どもに伝わるんですかね。だから先生のためにというのも変ですけども、ちゃんと練習をしていかないと申し訳ないという気持ち、そういうところからスタートしてるんですよ。毎回のレッスンが大変新鮮なもので自分にとってものすごく大きな意味があった時間だったんだろうと思いますね。子どもだからいつも最初の頃は親が付いてきて、週に2回のレッスンが始まるんですよ。

—レッスンは楽しかったですか？

いやあ、楽しくなかったですね。あの当時は今みたいにコピー機なんかじゃないんですよ、しかも楽譜がまず手に入らないんですよ。もちろん市販されてる楽譜もあったんですけども、その当時私も全然聞いたことのないようなロシアの作曲家のヴァイオリン曲を子どもたちに弾かせたりされるので、それを母が徹夜で全部鉛筆で写譜するわけです。今でも残っていますけど。今だったら、パッとコピー機にかければなんてことないんですけど、そういう時代でしたからもう親も子も必死。でも私だけじゃないですよ。桐朋学園のあの時代のお母さんたちはみんなそうでした。それが当たり前の時代だったんですよ、今ははずいぶん違います。また、私今思うのはね、小野アンナ先生もそうだし、他にも鷺見三郎先生とか、篠崎功子さんのお父さんでいらっしゃる篠崎先生、みなさんヴァイオリンを弾くということだけじゃなくて、当たり前の立ち居振る舞い、簡単な作法というようなことも含めての教育でした。今よりももしかしたら先生というのは、非常に威厳があり、尊敬というかなにかこう

怖いというか、そういうものの象徴だった気がします。

—愛用されているヴァイオリンについてお伺いいたします。

今使ってるのは1736年のデル・ジェス・ヴァルネリウスですが、今から10年ほど前に馴染みのロンドンの楽器商で出会いました。その楽器を見られたときは、すぐ飛行場に行って日本に帰らなくてとはいう時でしたが、試し弾きをしてすっかり魅了されてしまいました。今までにストラディヴァリウスを使ってた時期もありましたし、別のデル・ジェスを使ってた時期もありましたが、この楽器に出会ってからは日本に帰ってもどうも手に入れないと思い、ロンドンに飛んで帰って今私の手元にあります。

この楽器は、一世紀以上存在が知られていないミステリアスな楽器だったんですよ。ということはもちろんヨーロッパから出てないし使われてなかったということなので、音が若々しく力強い気がしますね。日本ではストラディヴァリウスがヴァイオリンの代名詞のようになってますが、デル・ジェス・ヴァルネリウスはいい状態で残ってる数がストラディヴァリウスに比べてものすごく少ないんです。ストラディヴァリウスは何百も残ってるけどヴァルネリウスの現存してる、本当にいい状態のものはもう数十もないでしょう、その中でも私はこの楽器に巡りあえて本当に幸運だと思ってます。10年経ってやっと自分に馴染んできて、今一番いい状態じゃないかと思えます。

—その一番いい状態のヴァイオリンで、今後5年間に渡ってさくらプラザで演奏していただくのですが、そのセルフプロデュース企画についてお伺いします。

最初はやはり様々な作曲家のヴァイオリンの曲を聴いていただけたらという事で、1回目は珠玉の小品をメインに選びました。2回目はカルテットとベートーヴェンの弦楽四重奏曲です。ベートーヴェンはヴァイオリンとピアノのためのソナタが10曲ありますが、ほとんどが初期の作品です。カルテットに取り組む事によって初期・中期・後期それぞれの時代の作品に触れる事ができ、私自身改めてベートーヴェンの偉大さに魅了されています。これまでオーケストラとの共演、リサイタルで

いつも立って弾いていますので、座って弾くカルテット、そして音の出し方や弓使い、ハーモニーを作るその全てが私にとつてとても新鮮で勉強になります。チェロの原田さん始め、ヴィオラの川本さん、ヴァイオリン久保田さん、とそれぞれ室内楽のベテランでいらっしやるので一緒に練習するのは刺激的で本当に楽しいです。

—最後に戸塚のお客様に一言お願いします

戸塚の駅に隣接された本当に恵まれた立地条件にあります新しく出来たさくらプラザホールで、私自身のプロデュースで2014年から5年間に渡って10回の演奏が出来ること、本当に嬉しく思っています。一人でも多くの方に聴いていただきたい、聴いていただけたらと一つ一つのコンサートをどのようにしようか企画、構成を考えていると本当に心が弾みます。皆様どうぞヴァイオリンの魅力、そしてヴァイオリンのために書かれたさまざまな作曲家の曲、演奏スタイル、ヴァイオリンの音をひととき聴いていただけたらと願っています。どうぞよろしくお願いたします。



インタビューを終えて前橋さんとさくらプラザ 田中館長

前橋さんのコメントは、さくらプラザHPにて動画でご覧いただけます。ぜひご覧ください！

【検索】 戸塚区民文化センターさくらプラザ
URL <http://www.totsuka.hall-info.jp>

前橋 汀子 セルフプロデュース 2014～2018年

第1回 2014年4月19日(土) ヴァイオリン珠玉の名曲集

第2回 2014年11月8日(土) 前橋 汀子カルテット

前橋 汀子 (Vn) 久保田 巧 (Vn)
川本 嘉子 (Vla) 原田 禎夫 (Vc)

Program

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第14番 ♯短調 op.18-4

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第8番 ♯短調 op.59-2「ラズモフスキー第2番」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第16番 ♯長調 op.135

※曲目は予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

第3回以降

2015年春・秋 2016年春・秋 2017年春・秋 2018年春・秋

※各公演の詳細は、さくらプラザHP・チラシ等で順次発表いたします。ご期待下さい！



Pick
Up
Artist



石川
滋

い
しか
わ

し
げ
る

演奏会は、生きる
喜びを共有する旅

25年の海外公演活動で絶大なる評価を受け、コントラバシスト・石川滋が帰ってきた。帰国後初のソロリサイタルが今年3月、ここさくらプラザで実現する。海外武者修行時代の話題から今公演の抱負まで、お話を伺った。

聴くか、弾くか、食うかの日々

一本日はよろしくお願ひします。まずはじめに音楽との出会いについてお聞きしたいのですが。

一番週れば、3歳の時。ピアノ教師だった祖母が最初の音楽の先生ですね。そこから相当長くブランクがありまして。もちろん音楽が好きだったし、母親はバイオリンやっていましたし、妹はピアノをずっと小さな頃からやっていますし、周りに常に音楽はあったんですけれども、なぜその時はまだ、それほど真剣にはやろうとしていなかったのです。

で、高校に入ってからですね。音楽に対する欲求が突然火山みたいに爆発して。それまでも幼いなりに、何か自分の人生に足りないものがあると感じ続けていたんですよ。高校入ってすぐくらいに、音楽というものに改めて主体的に出会ったんですね。その頃にチェロのカザルスと、ジャズのマイルス・デイヴィスという二人に出会って、衝撃を受けたんです。その時の感動がそのまま原動力となって、今まで来ちゃったっていう感じです。

—それは何か音源として聴いたのですか。

はい。もう当時のLPでもうはまって、とにかくマイルスだってカザルスだって、出ているLP全部小遣いつぎ込んで買って。その頃はもう楽器やっていたので、チェロやったり、コントラバスやったり。もう聴いてるか、弾いてるか、飯食ってるかっていう感じでしたね(笑)。

—ちようどその頃に実際に演奏することも始めたということですね。

そうです。ただ、音楽家として食べていける

なんていう自信は全く無かったんです。とにかく大学に入ってから考えようと思っていて。でも、その時点で音楽が自分の人生にとって、絶対切り離せないものになるとは確信していません。それで大学の途中で親父が死んだことがきっかけで、就職するかどうかという場面もあったのですが、人生一度しかないと考えた時には、迷いはほとんどなかったですね。それで大学を卒業してすぐ渡米して。

日本では周りの人と自分の音楽に対する価値観に、ずれを感じていたのですが、やっぱり外に出てみて一番良かったのは、自分の価値観というものがそれで良いんだって判ったことですね。

—その価値観の違い、一番大きなところはどんなところだったのでしょうか？

要するに音楽とは(何か)という部分でのずれみたいなものですね。



僕、慶応と同時に桐朋のディプロマ・コースに通っていて、音楽関係の学生や先生とたくさん出会いましたけれども、その部分でずれを感じていました。だから迷わず日本を出たのですが、行ってほどなく「ああ来て良かった、やっぱり俺は正しいんだ」って思った(笑)。アメリカに来て、音楽の本質は何か、じゃあその本質を表現するためにどういう技術が必要かという、その優先順位、そういう部分に納得しましたね。

—その中で、食べるか食えないかは別としても、アメリカで認められて。

いやもう、当時アメリカで仕事取るなんてことは、日本とは比べ物にならないほどの、想像もつかないくらいの難しさでした。競争も激しいところでしたから、それは揉まれましたよ。

あとは先生との出会いかな、やっぱり。まず最初に(エール大学で)ゲイリー・カーに1年師事して、彼も素晴らしいんですけど、僕の求めているものとちょっと違う部分があって。カー先生が1年で辞められたので、そんなタイミングも重なり僕も(大学を)出たんです。で、ジュリアードにユージン・レヴィンソンという凄い人がいまして、その門を叩いたんですよ。どんびしやりでしたね。全ての基礎は彼についたその4年にできた感じですね。

その後なんとか仕事も取れて、食べられるようになって、演奏家としての生き方についても考えました。オーケストラにはもちろんオーケストラの喜びがあるので、それはそれで追求してきました、これからはもうなんですけど、やっぱりソロは自分の音楽家としてのアイデンティティですから。大変であると同時に喜びも大きい。無伴奏というのは自分にとって大きなテーマですね。

弾きたいものを自分の声で表現したい

—コントラバス用の曲はなかなか少ないと思えますが...

あるんですけど、残念ながら魅力のある曲が少ない。正確に言うと、そういうことなんです。



Pick
Up
Artist



石川
滋

—するとやはり、チェロの曲などを編曲することが多いのですか？

今まではそうでした。音楽的に自分が共感できるものをやるっていうのは、最低限のポリシーですから、そこで妥協しちゃうのは考えられなかったし、人を説得するのも、自分が演奏していてエキサイトするような材料じゃないと難しいですね。

—ちょっとまた話が戻ってしまうのですが、コントラバスを始めたきっかけというのは？

実は叔父がジャズベーシストでして。当時叔父はニューヨークにいたのですが、日本にベースを1台置いてきていました。それで遊びに行ったらはしょちゅう弾いてたんですよ。そんなわけで1番身近で、じっくりくる楽器ではあったんです。やっぱり低音がすごく好きだったし、楽器を触った感覚もチェロよりしっくりきたし。それで、やはりベースのほうがいいなということと、途中でチェロは辞めてしまいました。

コントラバスは自分の唯一の楽器ですから、僕の声みたくなものです。コントラバスでチェロの曲を弾いてどんな意味があるんだ?なんていう人もいないわけじゃないんですけど、関係ないですね、僕には(笑)。弾きたいものを自分の声で表現したんだっていう、それだけです。ただ、どんな曲でもできるわけじゃないですし、いくら好きでも曲の



キャラクターがコントラバスとはマッチしないこともありますから、そういう場合はやらないです。要するにベースでやる意味がないと、自分のエゴだけじゃできないですね。

—コントラバスの特徴という？

一言でいうと弦楽器の中で断トツでボディが大きいですから、音の深さ、豊かさというが音色でしょう。同じオクターブ同じ音をチェロと出したとしても、まったく音色が違いますから。音楽的にドイツものとかロシアものは、わりと骨太で、男性的な曲が多いと思いますが、そういうものは合いますね。僕もドイツ音楽が好きですし、クラシック音楽の中心です。やはりどうしてもドイツものとかロシアものが多くなりますね。

自然の美にも匹敵する バッハの曲

—そんな中で、バッハのチェロ組曲というのはどういった位置づけになりますか？

バッハは、天才作曲家たちが崇めているような、本当の本当の源、特別な人です。無伴奏の組曲は、大変ですが辛いコントラバスでも弾ける宝みたいなものですね。何度登っても飽きない山というか。あれだけ飽きない曲ってないですよ。あれだけ大変な曲もなかなかない(笑)。

—音だけ聴いていると、難なく弾けると感じますか？

いやいや、とんでもないです。弾いている側はもう途中で意識が遠のきそうになります(笑)。

バッハを最初にベースで弾き始めたきっかけは、ゲイリー・カー先生で、最初に僕にくれた宿題がバッハの第3番だったんですよ。「こんなの弾けるのか？」と思いつつも最初に課題にされたので、もう死にもの狂いで食らいついていったんですね。ジュリアードの試験でも、3番を弾いた覚えがあります。そこからやっぱりライフワークになっちゃいました。

自然というものは、例えば木があって、葉っぱは一つ一つ違うけれども、全体を見ると完璧にバランス

が取れているじゃないですか。バッハの音楽というものは、そういうレベルのバランス、美しさだと思うんですよ。特に無伴奏、中でもチェロの無伴奏組曲は、バイオリンの曲などと比べると音数を削りに削っている。それでも和声などが完璧に表現されていて、余計なものもないし、足りないものもない。本当に驚異的ですよ。

—自然の美しさを見るような感覚だと。

通じるものはあると思います。カザルスはいつもレインボーって言ってましたね。「音楽は虹であって虹のつながりだ」と。バッハの無伴奏チェロ組曲は、第1番、第2番、第3番と小川から川がだんだん太くなって4番5番になるとどんどんスケールが大きくなって大河になっていくイメージです。小川には小川の、大河には大河のそれぞれの美しさがあるように、無伴奏組曲もすべての曲がそれぞれに美しい。(すべての曲で)美しさが劣らないというのはすごいことです。

音楽とは、生きることへの讃歌

—今回演奏される、バッハ以外の曲についてはいかがでしょうか？

まず最初のガブリエリは、イタリアの作曲家でチェリストだった人です。彼が自分の楽器のために書いた「リチェルカーレ」という曲があるのですが、全部で7つあるうちの2つを今回やろうと思ってます。バッハよりも前のバロックですから、現代から見たら信じられないくらいシンプルな曲ですけど、そこにはまた美しさがあると思います。

後半には、鈴木鎮一の「前奏曲と名古屋の子守歌」をやって、現代曲パーシケッティをやって、カザルスをやろうと思っています。

鈴木鎮一っていうのは、スズキ・メソッドを作った僕の大叔父なんですよ。その叔父が自分で編曲して、何かっていういつも弾いていたのが、今回やるこの曲。元は名古屋の大工さんの「木遣り歌」っていうのと、名古屋の子守歌ですね。これを組み合わせ、曲にしました。それを僕がコントラバスに編曲しました。

次のパーシケッティはアメリカ人の作曲家で、「パラブル」という曲をあらゆる楽器に1曲ずつ書いています。コントラバスにも無伴奏のオリジナルを1曲書いてくれていて、いろいろな奏法が出てきてカラフルな印象を受けられると思うんですけど、その色彩みたいなものを感じていただければなと思ってます。6分くらいの短い曲です。

そのあとは有名なカザルスの「鳥の歌」。これは彼が平和を祈り祖国を思い、弾いていた曲です。カザルスは僕にとって神様みたいな人。彼がピアノやオーケストラ伴奏で愛奏していた曲だったので、敬意を表して僕はぜひコントラバスで無伴奏の形にして弾きたいと思い、自分で編曲したんです。

—石川版の編曲「鳥の歌」の特徴はどんなところでしょうか？

可能な限りオリジナルに忠実ですので、やはり無伴奏という点が最大の特徴ですね。どこからヒントを得たかという、カザルス詣でした時のインスピレーションでして。彼が住んでたところがカザルス博物館になっていて、そこからちょっと内陸に行くと、彼が生まれた小っちゃな村があるんです。そこで鳴る鐘の音が「鳥の歌」のメロディーなんです。それで「あつ無伴奏面白いな」と思って。

—そんな一つ一つの思いをのせて、お客様の前で演奏されるわけですが、演奏会というものについての石川さんの思いを伺いたいのですが。

石川 滋 無伴奏コントラバス・リサイタル 世界のShigeruが贈る「至高のバッハ」 ～コントラバスの重厚なる深淵に耽溺する～

2014.3/2 [日] 15:00 開演 (14:00 開場)

好評発売中

全席指定 区民3,000円 / 一般3,500円

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BWV1009

ドメニコ・ガブリエリ：リチェルカーレ第1番、第3番

バプロ・カザルス(石川滋 編曲)：鳥の歌

ヴァンセント・パーシケッティ：

無伴奏コントラバスのためのパラブル 作品131

鈴木鎮一(石川滋 編曲)：前奏曲と名古屋の子守歌

※曲目は予告なく変更となる場合がございます。ご了承ください。

演奏会、ひいては音楽ということになりますが、生きている喜びを共有するのが本質だと思います。あらゆる芸術がそうなのでしょうが、特に音楽はリアルタイムで同じ空間、時間を共有してすることですね。

何を共有するかっていうと、やっぱり今生きていることの喜びだと思うんですよ。音楽っていうのはつまるところ、生きることへの讃歌だと思います。

また、別の側面として、作曲家が書いた素敵な景色を見せていく旅みたいなの、という面もあると思います。演奏家は船のキャプテン。お客さんは乗客で、我々がいろいろな景色を見ると(お客さんも)一緒に見る。だからやはり音楽というのは、演奏する時にそこに喜びがなければ残念ですよ。悲しいことがあったとしても、暗い気持ちでやりたくないです。

—キャプテンだけいて、乗っている観光客がいないと、それは景色を見る意味がなくなっちゃいますよね。非常に分かりやすかったです。では最後に、今回戸塚の新しいホールにいらっしゃるお客様に向けてメッセージをお願いします。

無伴奏のコントラバスを聴く機会というのはほとんどの方が無いと思うので、本当に僕にとって貴重な機会ですし、この楽器の魅力をダイレクトに体感していただく良い機会なので、ゆっくり楽しんでいただけたらと思います。寝ちゃわずに(笑)。

—本日は貴重なお話をありがとうございました。





佐藤 俊介

Shunsuke Sato

バロック・ヴァイオリン (baroque violin) バロック・ヴァイオリンは、ネック、指板、駒、テイルピースがバロック時代の形状のヴァイオリン。

モダン・ヴァイオリンとは、さまざまな違いがあるが、最も重要な違いは弓である。モダン・ヴァイオリンの弓の形状は中間部が凹んだ曲線を描く一方、バロック・ヴァイオリンの弓は直線形であるか、又は中間部が少し膨らんだ曲線を描く。

弦は通常ガット弦を使用し、金属弦・ナイロン弦に比べ、音が豊かで、あたたかみがあり、柔らかい響きが特徴となっている。また、モダン・ヴァイオリンとは異なり、顎当りや肩当を付けずに演奏することで、緊張のない自然な体勢をとり、自由度が高い演奏が可能である。

—ヴァイオリンを始めたきっかけは何ですか？

母がピアニストで、クラシック音楽のある家庭環境でした。特にヴァイオリンの音色を喜んで聴いていたようです。2歳の時、近所の鈴木メソッドの教室へ見学に行きましたが、その当時の事を覚えています。

—プロを目指そうとしたきっかけはありますか？

エピソードもございましたらお聞かせください。

特にきっかけはないのですが…。気づいたらプロの演奏家になっていたということは非常にラッキーですね。

—演奏するときに心がけていることはありますか？

「人間味」のある音楽であること。機械的であったり「ルール」だけに従う音楽は好きではありません。

—今回の演奏で是非ここを聞いてほしいというところはございますか？

耳馴染みのあるモダンヴァイオリンにはない、バロックヴァイオリンのならではの音色。

—今後、どのような演奏がしたいですか？

クラシックの「伝統」をインスピレーションのために使い、同じ作品でも新しい観点や演奏方法でまるで新しい曲に聴かせていきたいです。

—戸塚のお客様にメッセージをお願いします。

新しいホールで弾かせて頂くのを楽しみにしております。気分良く午後を迎えられ、お昼ご飯がより美味しくなるコンサートにしたいと思います！



©ユニバーサルクラシックス&ジャズ

佐藤 俊介(ヴァイオリン) Shunsuke Sato

1984年東京生まれ。モダン、バロック双方の楽器を弾きこなすヴァイオリニストとして、活発にコンサート活動を行っており、同世代の中でも際だって多才な音楽家として賞賛を浴びている。

2歳でヴァイオリンを始めた。2年後、両親と共に渡米、チン・キムに師事した後、ジュリアード音楽院プレカレッジでドロシー・ティレイ、川崎雅夫に師事した。2003年、パリに移ってジェラルド・ブルーレにモダン・ヴァイオリンを師事。2009年からはミュンヘン音楽大学でバロック・ヴァイオリンをメアリー・ウティガーに師事している。

バロック・ヴァイオリン奏者としては、コンチェルト・ケルンおよびオランダ・バッサ協会のコンサートマスターを務め、日本のオーケストラにバカラシカ、ベルリン・ラウテン・カンパニーではソリストとして演奏している。2011年には、近年では初めて、エンシェント室内管弦楽団と共にバガニーニのヴァイオリン協奏曲第2番をビリオド(古楽器で演奏した。また、クリスティーン・ショルンスハイム、鈴木秀美、リチャード・エガーらと室内楽を定期的に演奏している。

モダンの分野では、日本の主要オーケストラはもちろん、ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、フランス放送フィルハーモニー、ロシア国立交響楽団と共演。アメリカでは、10歳でフィラデルフィア管弦楽団にデビューして以来、ホルティモア交響楽団、ナショナル交響楽団、シアトル交響楽団など名だたるオーケストラと共演している。

2010年、ライプツィヒの第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞を勝ち取り、バロック・ヴァイオリンの分野で更に評価を高めた。出光音楽賞、S&Rフシントン賞など受賞も数多い。

録音も「イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ op.27」第62回文化庁芸術祭で大賞を受賞した「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」。最近では「テレマン：無伴奏ヴァイオリンのための12の幻想曲」など、幅広い分野にわたる。また、「バガニーニ：24のカプリスop.1」では、バガニーニの作品を世界で初めてガット弦とバロック・ボウを使った歴史的奏法で録音した。(2013年12月)



©Sakai Koki

ブランチコンサート Vol.5 佐藤 俊介

バッハの無伴奏曲をバロック・ヴァイオリンで

2月24日(月) OPEN 11:00 / START 11:30

■ プログラム

J.S. バッハ：無伴奏パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005

■ 聴きどころ

一台のヴァイオリンが踊ったり、歌ったり、複数の人物に変身して対話したりする、バッハの無伴奏ソナタとパルティータ。澁刺として、情熱に溢れるこの名曲を、今回はバロックヴァイオリンで演奏いたします。ブランチコンサートに相応しい、太陽のように明るいパルティータ第3番と、爽やかにサッパリしたソナタ第3番を聴いて頂きます。

好評発売中

全席指定 / 1,000円(前売 / 当日)

□ さくらプラザ TEL予約 / 窓口販売

TEL : 045-866-2501

□ ローソンチケット

TEL : 0570-000-407 【Lコード : 38356】

■ Vol.4 横坂 源(チェロ)公演 同時販売中!



クラシックコンサート 鑑賞マナー

その1. 演奏中はお静かに…

飴の包み紙、
ビニール袋のカサカサ！
カバンをゴソゴソ！

小さな音でもホールの客席では
すみずみまで響きます。
杖なども演奏中に倒れてしまわないように
床に寝かせてください。
公演中、カバンやビニール袋などは
膝の上や椅子の下に。
パンフレットやチラシをめくる音も
意外と気になるものです。

その3. 拍手の タイミング

演奏の余韻を
拍手で消さないで！

基本的には出演者がステージに出てきた時、
演奏が終わった時に拍手を送りましょう。
楽章の切れ目では、拍手はしません。
切れ目が分からない!という人は
拍手が始まったら拍手をすればOKです!
また音の余韻も曲の一部。
余韻が消えるまで演奏をじっくり
お楽しみください。

すてきなコンサートには
一人一人のマナーも大切！



その2. 服装マナー

コートや帽子、
周りの人には迷惑かも！

冬場は厚手のコートも客席では
大きな荷物。背もたれにはかけずに
なるべくクロークに預けましょう!
また、帽子をかぶったまま鑑賞するのは
後ろの席の方の邪魔になります。
またホール内は寒い場合もありますので
1枚羽織るものや、ストールなどが
あると良いでしょう。

今回は、クラシックコンサートでは
お馴染みの「ブラボー!」についてです。
「どのタイミングで言ったら良いの?」
「そもそもどんな意味?」などなど…
これであなたもクラシック上級者!

戸塚の名所に行き実際に来ました！編



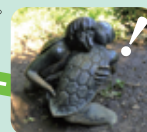
富塚八幡宮

あけましておめでとうございます。
さくらプラザの渡辺駆です。
新年と言えばやはりすぞろくですね!
ということで、さくらプラザの4階に設置された
「戸塚名所図寿娘録(すぞろく)」もお陰様でご好評
いただいております。
今回は寿娘録の題材となった戸塚の名所に実
際に行き、写真に感想を交えながらご紹介した
と思います!



舞岡公園

まずはスタート地点である「富塚八幡宮」からで
す。ご存知の方も多いと思いますが、「富塚」とい
うのがここ「戸塚」という地名の由来だといわれ
ています。私が行った時には、ちょうど保育園の子供たちが神社の周りで走り
回って遊んでいてとても賑やかでした。地元の方達に親しまれている
場所だと感じました。



南谷戸の
大わらじ

続いて自然がたくさん「舞岡公園」へ!
まず始めに小谷戸の里に寄り道しましょう。鬱蒼とした森を抜けて、一面に広がる
田んぼが見えてきました。日本ならではの風景に、思わずグッとこみ上げるもの
がありました。来た道を戻り、瓜久保のカツパ池で相撲するカツパを描写しました。
続いては、「南谷戸の大わらじ」です。おおわらじは旅人の道中祈願のために作られた
そうです。疲れた体を休めるために戸塚で宿をとり、鎌倉へと向かっていく。そうい
った人の流れがこの町にはあったのだと、少し感慨深い気持ちにさせてくれます。



東峯八幡神社

お次は「鎌倉ハムの赤煉瓦
倉庫」を見に行きます。ここ
赤煉瓦倉庫は日本で一番
初めにできたハム工場で
す。煉瓦造りの建物はと
ても趣があって渋い魅力が
あります。



鎌倉ハム
赤煉瓦倉庫

さあ寿娘録も終わりに
近づいてきています。
次は「東峯八幡神社」
というおとぎ話に出
てきそうな神社と、立
派な大樹を見に行き
ました。木の幹にふと
腰を下ろしてみたくな
ります。



柏尾川と総合庁舎



今年もさくらプラザをよろしくお願ひ致します!!

駆
が
くる
駆ける
連載
4



戸塚区民文化センター さくらプラザ

第3回 リハーサル室



本番利用も可能なリハーサル室。
ピアノ、歌の発表会などにも利用されています。
ピアノはYAMAHAのセミコンサートピアノ。
音響ワゴンやマイク・スピーカーも揃っています。



大きな鏡面があるので、バレエやダンスの練習にも利用できます。
大きな窓ガラスからは、柏尾川と春には満開の桜も望めます。このロケーションで演奏ダンスができるのはさくらプラザだけ。みなさまからご好評いただいています。ミニコンサートや催し物もたくさん行われていますので、ぜひご来場、ご利用ください！

アフタヌーンJAZZ LIVE ~2月の🌸にJAZZが咲く~

Swing Journal誌 第55回日本ジャズメン読者人気投票 女性ヴォーカリスト部門 第6位!

2月9日(日) 15:00開演 (14:30開場)

会場: さくらプラザ・リハーサル室

出演: 赤坂由香利(vo&p) / 村谷ゆうすけ(b)

料金: 全席自由 1,500円 ●1/10(金) 10時~発売

さくらプラザ/ローソンチケット (TEL.0570-000-407 Lコード:38712)

【問合せ先】さくらプラザ TEL045-866-2501

関連イベント チケット同時発売! 『横浜JAZZオールスターズライブ』@ホール(2/10 19:00 区民:2,500円/一般:3,000円)

『魅惑のJAZZレコード展』@ギャラリーA(2/5-10)約200点のレコードジャケットから、JAZZの歴史と変遷をたどる

『アートマネジメント講座①「ジャズはこうして始まった」』@ギャラリーA&創作室(2/6-7)

『アートマネジメント講座②「横浜ジャズプロムナードに学ぶ市民協働」』@リハーサル室(2/8)



柳家 小せん

筆の向くまま



連載 第四回

あけましておめでと〜うございます。
お正月、ですねえ……皆様このような新年を迎えておられるのでしょうか。家族でのんびり過ごす方、一人でもしむじみ迎える方、友人と集まって初詣や新年会と賑やかに過ごす方、帰省する方、その帰省を迎える方、なかには正月だからとて休むわけにはいかず普段通り、いや、いつも以上に働いている方もいらっしゃるでしょう。

昨今は、各種のお店も早くから営業をはじめるところが多く、お正月気分が長続きしないような気がします。その点、我々の業界は引っぱり張ります。なにしろ、おめでたいことは長い方がいいですから。

前回こちらで、寄席の番組は十日毎に出演者が変わると申し上げましたが、年頭の十日間は『初席』と言って顔見世興行、普段は忙しくて寄席を休んでいる人気者や大看板も総出演。そうでない者も余程の事情がない限り総出演とにかく出演者が多い。通常は一時間に四本、十五分見当の持ち時間ですが、初席は七〜八本なんてことになる、と、ええと、七分すつくらい? さらに、前からの時間が押ししている、五分に満たない高座でおどけるといってもサラにある、それでも芸人の数が多いので、よほどの人でない限り数人で交替出演、数日に一度という出番になる。落ち着いて落語をやる状況ではないのですけれど、正月らしい風情なのです。

お祭り騒ぎの初席を済ませた後の十日間、十一日〜二十日まで、は、『二之席』と書いて、これも特別興行。演者の数はいつもより若干増えるくらいですが、豪華な顔ぶれが揃います。まだ松の内という扱いになっているのです。

二十一日からは通常の興行に戻りますが、一月いっばいは、年明けはじめて会う人がいると、「おめでと〜うございます」今年もよろしく」という挨拶が飛び交います。

ですからね、お客様にとっても、縁起物である『初笑い』の効力は一月の間は有効ですよ。
正月二十五日、当ホールにての落語会「泣く落語」と銘打ってはいけませんけれどね、泣ける部分はあっても、基本的には笑っていただきますから。当日までにご覧の中で笑うことはありますが、会場一体になって笑うのはまた別物ですからね。御来場お待ち申し上げます。
ん? 二号にわたって宣伝か?
(柳家小せん・戸塚出身落語家)

トツカミカエリオヤジ 戸塚見返親仁

男は背中で物語る

其之巻の後ろ姿は... 『小野園』の社長でした! 「美味しいお茶と海苔のことならトツカーナモール2階の小野園へ!」

其之四



商店のご主人など、戸塚区内で働いているオヤジ世代の後ろ姿から、何処の何方だろうかと思像してみるコーナーです。次号では、見返りポーズで、お顔を公開します。



顔見世

さくらプラザ 自主事業公演スケジュール

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1月 January						1/25 15:00 新春さくらプラザ 寄席～泣く落語～ 三遊亭歌之介 橋家文左衛門 柳家小せん
	1/27 11:30 ランチコンサート Vol.4 横坂 源 ～名曲による無伴奏 チェロの魅力～					2月 February
	2/3・4 9:00～21:00 ～貴方だけのさくらの祭典～ スタインウェイ・フルコンサート ピアノをコンサートホールで 弾いてみませんか？		2/5～10 9:00～20:00 (入場無料) 魅惑のJAZZレコード展@ギャラリーA ※ギャラリートーク&レクチャー開催(申込制)			
			JAZZ	2/6・7 15:00/19:00 アートマネジメント講座① 「ジャズはこうして始まった」		
2/9 15:00 アフタヌーン JAZZ LIVE 赤坂由香利(Vo&P) 村谷ゆうすけ(B)	2/10 19:00 横浜JAZZオール スターズライブ 向井滋春(Tb)/井上淑彦(Ts) 坂橋文夫(P)/古野光昭(B) 守新治(Ds)					2/8 13:00/14:00/15:00 アートマネジメント講座② 「横浜ジャズブロードに学ぶ市民協働」
						2/22 13:00 ガールズ ミュージック大会 公開審査&ミニライブ
	2/24 11:30 ランチコンサート Vol.5 佐藤 俊介 ～バッハの無伴奏曲を バロック・ヴァイオリンで～					3月 March
3/2 15:00 黄金バッドVol.3 石川 滋 無伴奏コントラバス・ リサイタル						3/17 11:00 「赤ちゃんとママのランチコンサート」 三浦友理枝 (Pf) / 遠藤真理 (Vc) 3/30 14:00 「KIDSのためのクラシックコンサート」 奥村愛 (Vn) / 前田尚徳 (Vn) / 山田那央 (Vla) / 奥村景 (Vc) / 小柳美奈子 (Pf)

ご予約・お問合せは TEL: 045-866-2501

Vol. 3

横浜市戸塚区民文化センター
さくらプラザ 情報誌

2014.1.1発行



戸塚区民文化センター さくらプラザ

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17 FAX: 045-866-2502

<http://www.totsuka.hall-info.jp> MAIL: event@totsuka.hall-info.jp

編集・発行: 戸塚区民文化センター さくらプラザ 指定管理者: アートプレックス戸塚株式会社 運営企業: 株式会社 共立